

## 歯科用レントゲン・CTによる被爆について

レントゲンは放射線により見えない所を見えるようにする、歯科治療には欠かせない装置です。

みなさんは、日常生活を送っているながら被爆していることをご存知ですか？

聞き慣れないかもしれませんが、放射線の測定に Sv(シーベルト)と言う単位を用います。ちなみに日常生活で自然に浴びる放射線が**日本の場合平均 1.5~2.0mSv**とされています。ブラジルのガラバリ市街地ではなんと10mSvの自然放射線が観測されるそうですが、ガラバリの住民が他の地域と比べて特別健康に問題があるというデータはありません。また、意外と知られていないようですが、東京からニューヨークまで飛行機で移動した場合、0.19mSvの放射線を浴びることになります。

対して歯科のレントゲンですが、**小さい歯科用レントゲンで1回 0.004~0.0025mSv**、口腔全体が写る**パノラマでも約 0.04mSv**です。つまり、歯科用レントゲン写真1枚は**自然放射線の100分の1~1000分の1程度**に過ぎません。レントゲン撮影によって得られる情報は多岐にわたっており、特に歯と歯の間の虫歯や、歯を支える骨の状態などはレントゲン無しでは見る事が出来ません。肉眼で見ただけでは分からない情報をたくさん出来るレントゲンは、思ったより安全で、しかもとても役に立つものなのです。胎児に影響が出ると言われている被爆量が100mSvとされています。その量のレントゲンを歯科で浴びようと思うと??10000枚の歯科用レントゲン写真を撮ることになります。

ですから、妊婦の方でも歯科のレントゲンはほぼ問題にならないと考えてよいようです。それでもどうしても心配だと言う方は5~7ヶ月の安定期に治療されると良いでしょう。



←の歯科用レントゲンの矢印の箇所は虫歯であったり骨の吸収であったり、肉眼ではわからない情報がたくさん写っています。

### <参考>

胸部のレントゲン→約 0.06~0.5mSv

胃のレントゲン→約 3.0~4.0mSv

頭部のレントゲン→約 0.5~2.0mSv

